世界スカウトジャンボリー参加者の侵襲性髄膜炎菌感染症発症報告について

資料6

経緯

○ 2015年7月28日～8月8日に山口県山口市で第23回世界スカウトジャンボリー（WSJ2015）が開催された。152カ国から約3万4千人が参加し、日本人参加者は約6千人であった。

○ 8月13日スコットランド公衆衛生当局から、WSJ2015の参加者のスコットランド人１名が帰国後に侵襲性髄膜炎菌感染症を発症したと情報提供あり。 検査の結果、WSJ2015の参加者3名（スコットランド隊）と参加者の親類1名（計4名）の確定例が報告された。

○ 8月17日、スウェーデン公衆衛生当局から、WSJ2015の参加者で髄膜炎に罹患した可能性が高い患者１名及び調査中の2名について報道発表あり。検査の結果、WSJ2015の参加者１名（スウェーデン隊）が侵襲性髄膜炎菌感染症の確定例と確認された。

対応

○ 8月14日、ボーイスカウト日本連盟に対し、WSJ2015参加者に対し、髄膜炎菌感染症の特徴を情報提供するとともに、体調変化を感じた際には早期に医療機関を受診するようことについての注意喚起を要請。加えて、スコットランド隊と滞在場所の近かった日本隊の帰省先の自治体、日本医師会及び文部科学省等に、上述の注意喚起について情報提供。

○ 8月18日、世界スカウト連盟がWSJ2015の大会ホームページに、本件に関する情報 （患者の発生、患者の国名、活動場所等）を掲載したことを受け、翌19日に厚生労働省から関係自治体に改めて情報提供。

○ スコットランド公衆衛生当局、スウェーデン公衆衛生当局及び日本スカウト連盟を通じ、国立感染症研究所の協力により疫学調査を実施したところ、日本国内での明らかな濃厚接触者は確認されなかった。

○ 国内で2015年8月以降に報告された侵襲性髄膜炎菌感染症は4症例であるが、調査の結果、いずれの症例もWSJ2015との疫学的関連は否定されている。

写

健感発 0814 第 1 号
平成 27 年 8 月 14 日

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟理事長　殿

厚生労働省健康局結核感染症課長

第 23 回世界スカウトジャンボリー大会参加者における髄膜炎菌感染症の発生について（注意喚起）

世界スカウト機構が主催した第 23 回世界スカウトジャンボリー大会にスコットランドから参加した者２名が、帰国後に髄膜炎菌感染症と診断され入院中である旨、スコットランド当局から厚生労働省に情報提供がありました。

髄膜炎菌感染症は容易に感染するものではありませんが、上記患者との濃厚な接触があった参加者については、感染のリスクが考えられます。

貴連盟におかれては、当該大会の参加者に対して、髄膜炎菌感染症の特徴（別紙参照）と併せて、体調の変化に注意すること、体調に変化を感じた際には早期に医療機関を受診することについて注意喚起いただくよう、特段の御配慮をお願いします。

別紙

髄膜炎菌感染症について

○ 髄膜炎菌は健康な方の喉にも存在していることのある細菌です。

○ 髄膜炎菌感染症は、全く症状が出ない場合や、咽頭痛などの軽い上気道症状のみが出る場合がほとんどですが、稀に血液や中枢神経に感染が広がって、発疹（紫斑）、頭痛のほか、高熱、嘔吐、意識障害などの重い症状を呈する場合があります。

○ 髄膜炎菌感染症は、麻疹などの空気感染により伝播する疾患と異なり、一つ屋根の下での同居生活（テントを含みます）をする、飲み物の回し飲みをする等により、感染者の唾液やしぶきなどの飛沫に濃厚な接触をしなければ伝播しません。また、髄膜炎菌感染症は抗菌薬による感染後の予防や治療が可能で、早く診断し適切に治療を行えば、治癒可能な病気です。